



清 泉

令和5年5月2日
昭島市立清泉中学校
校長 佐藤 晴美

昭島市立清泉中学校 〒196-0024 昭島市宮沢町1-9-1
電話042-541-0762 FAX042-541-6869 <http://www.city.akishima.ed.jp/~seisen/>

本との出逢い

私は本屋や図書館が好きです。時間ができると本屋に居ます。何の本が欲しいか決めて行くときもあれば、漠然とテーマやジャンルだけを決めてというとき、さらには「そこに本屋がある」から本屋に入ることもあります。

今はインターネットで買い物ができ、私の知り合いも、書籍などはネットショッピングで済ますと言っています。さらに、持ち運びが便利ということで電子書籍に移行している仲間もいます。

でも、私と同じように「本屋が好き」という仲間も多いのです。なぜでしょうか？

もちろん、私も、必要な書籍をピンポイントでインターネット注文をすることがあります。しかし、本棚に陳列された書籍を右から左に、上から下に……と眺めていると「これってどんな本なんだろう」と思う本に巡りあうことがあり、それが楽しみとなっています。自分の知らなかった「おもしろいもの」、「興味がわくもの」に“ふれあい”、自分の心が満たされる経験がこれまで幾度もあったからでしょう。この楽しみ（知的好奇心）は、本屋に限らず、図書館でも同様の“出逢い”があります。

.....

私が尊敬するある方が、「読書はコミュニケーション能力を豊かにする」と言われました。その人はそれ以上の説明はされませんでした。私なりにその言葉を解釈する余地を残してくれたのです。物語を通じて、人の物事の捉え方はそれぞれ異なるということを知ります。また、何か考えるときのヒントにもなることが記載されていたり、他の人との会話の話題を豊かにする内容があったりします。さらには、そのストーリーに引き込まれ、一気に読みをして心が純粋に満たされ、心の余裕が生まれ、人との関係性がよくなることもあると思っています。

もう一つ。ある研修会の講師が言っていたことですが、「自分にとって読みやすい本はもう自分と同じ考えだから読みやすい。読んでいてもなかなか読み進められない本は自分の価値と違う本。でも本当はそういう本を大切にしなければね。」とおっしゃっていました。今の私はやっぱり心地のよい本を選んでいるような気がします。もっと視野を広げるためにも、様々な本（著者）との出逢いを大切にしていこうと思います。

書籍紹介 「ぼく モグラ キツネ 馬」(チャーリー・マッケジー著/川村元気訳/飛鳥新社)から抜粋

“みな、なにかをこわがっている”馬が言った。

“でもいっしょなら、こわくなくなる”

“涙がでるのはきみが弱いからではない。強いからだ”

“いままでにあなたがいったなかで、いちばんゆうかんなことばは？”ぼくがたずねると、馬はこたえた。

“たすけて”

“いちばん強かったのはいつ？”

“弱さをみせることができたとき”

“たすけを求めることは、あきらめるのとはちがう”馬はいった。

“あきらめないために、そうするんだ”

多く人は自分の価値観で考えているのではないのでしょうか。この本との出逢いは、そっと別の考え方を教えてくれます(これもまた1つの考え方ですが)。ちょっと見方を変えると「本当にそう見えてくる」本です。

「やさしさ」「ゆるす」「意味」「理由」「ふつう」「完璧」などのキーワードが散りばめられています。私の知人は「完璧」の部分が印象に残ったとのこと。校長室にもこの本を置いてあります。ぜひ、興味のある方はどうぞ。